
国際戦略経営研究学会
The International Academy of Strategic Management
NEWSLETTER VOL. 12 No. 1

2023/1/16

目次

1. 会長新年挨拶
2. 通常総会のご報告
3. 役員改選の経過と新理事体制
4. 2022年度学会賞受賞者のお知らせ
5. 2022年度年次大会のご報告
6. 2023年度年次大会のご案内
7. 学会誌編集委員会からのお知らせ
8. 新研究会：企業革新研究会のご案内
9. 事務局からのお知らせ

1. 会長新年挨拶

国際戦略経営研究学会会員の皆様、新年おめでとうございます。良き新春をお迎えのこととお喜び申し上げます。この一年間が皆様と学会にとって素晴らしい年となりますことを、心よりお祈り申し上げます。

さて、私は昨年10月15日に行われた2022年度第一回理事会において会長に選任されました。これまで皆様に対するご挨拶ができておりませんでしたので、この場をお借りして会長就任の抱負を述べさせていただきたいと思っております。

当学会は2008年1月に「戦略経営」のフロンティアの開拓を目指すという理念のもと設立されました。当時私は戦略理論に興味をもつ企業勤務の実務家でしたが、設立総会で聞いた「戦略経営」というコンセプトの新鮮さが今でも記憶に残っています。それから15年の歳月が流れ、その間に私は大学教員となり、当学会は研究者としての私にとってなくてはならない存在となりました。コロナ禍による様々な活動の制約や会員数の停滞など、設立から15年を経た現在、学会は様々な課題を抱えています。このような中で会長という大役を仰せつかった責任の重大さを痛感しています。

国内に経営学系の学会は数多くありますが、当学会にはいくつかのユニークな特徴があります。まず実務家の会員比率が35%（2022年10月末現在）と高く、大学教員・研究者と実務のプロフェッショナルが知恵を磨き合う場が数多く用意されていることです。実務家の視点から研究を行い発表しやすい雰囲気があるとともに、研究者としても実務家の提供する実践知を学術知へと転換するための環境に恵まれています。このような特徴も活かして、現実の経営の諸問題を多面的、総合的に分析しつつ、それを踏まえて新しい戦略理論の構築を試みる活動を活発化させていきたいと思っております。

また当学会は戦略、組織、人材開発、研究開発、財務会計、国際経営など様々なファンクショナル分野を総合的・体系的に捉える「戦略経営」の展開を目指しています。経営環境が複雑に変化する中で、企業経営においてはそれぞれの変化に適応できるための高度な専門性が求められてきました。しかし新しいパラダイムに挑戦していくためには、経営を総合的に捉える視点が不可欠であり、これをアカデミアの立場からも推進していくことが求められています。総合的・体系的な「戦略経営」論という新領域の確立を目指す当学会の果たす役割はますます重要になっていると思っております。

さらに、学会名にも冠されているように、「国際」的な視点と手法で戦略経営を論じることが重視されています。設立当初から和文ジャーナルに加えて英文ジャーナルを発刊し、すでに第14巻を刊行するまでになりました。国内学会にとって英文ジャーナルの発刊は様々な困難を伴いますが、海外の研究者や英文論文発表を希望する国内研究者にとって貴重な発表の場を提供しています。また研究発表大会でも英語セッションを設け、海外の研究者による基調講演やパネル討議を開催するなど、国際性を重視する方針は引き続き堅持していきたいと思っております。

ただ、上に挙げた当学会のユニークな特徴は同時に学会を運営するにあたっての困難さを伴います。実務家と研究者の相互作用が実務と研究それぞれにとって有意義になるためには、双方の問題意識に適度な距離感をもつことが求められます。様々なファンクショナル分野の広がりには、対象とする論文テーマの幅が非常に広範となり、ジャーナルに投稿された論文に対する適切な査読者の選定が難しくなります。同様に英文ジャーナルに投稿された英文論文の査読者には通常の論文以上の負担をお願いすることになります。

当学会ならではのユニークさを維持していくためには、このような困難さ乗り越えていく工夫が必要となります。まずは学会活動の三本柱ともいえるジャーナル、大会、研究会をしっかりと着実に運営しつつ、国内外の研究機関との交流や情報発信、学会賞の顕彰や出版物の刊行など、様々な付加価値をつけていきたいと思えます。このような地道な活動の積み重ねによって学会の魅力が増し、新たな会員の参画と会員間ネットワークの拡大に繋げることができれば何よりです。これから二年間の任期の間、常任理事、理事、そしてすべての会員の皆様と力を合わせて、本学会のさらなる発展のために微力を尽くしたいと思います。ご支援のほど、どうぞ宜しくお願い致します。

国際戦略経営研究学会 会長

安田 洋史

2. 通常総会のご報告

2022年9月17日にオンラインにより通常総会を開催しました。審議事項、報告事項は下記のとおりで、9月11日の理事会で承認された審議事項についてはいずれも承認されました。

(1) 会則および役員選任規程の改定

前回の通常総会でコロナ禍における臨時措置として現役員の任期を1年延長することが承認されました。今回の役員改選に際して「会則および役員選任規程の改定」案が提案され、承認されました。改定の要点は次のとおりです。

1. 会務執行体制の継承性と民主制の双方を担保する

1-1 再任制限の廃止

1-2 立候補者と常任理事会推薦者を併用した選挙

2. 委員会名称の統一、実態との齟齬等軽微な修正を行う

この改定にもとづき、役員選任日程、選挙管理委員会設置、理事立候補受付の説明がありました。

(2) 2021 年度事業報告および決算案

事業報告として各委員会の報告が行われ、決算案（損益計算書、貸借対照表）が説明されました。加えて安部博文監事、伊藤富佐雄監事による監査報告書が説明されました。これを受け、事業報告および予算案が承認されました。

(4) 2022 年度事業計画および予算案

事業計画案および予算案（損益計算書）の説明の後、承認されました。

(5) 報告事項

会員の現況（会員数：275 名）等について報告があり、今後の課題について意見交換がありました。

3. 役員改選の経過と新理事体制

2022 年 9 月 17 日の総会で承認された「会則および役員選任規程の改定」に基づき、役員改選が行われました。

9 月 18 日に選挙管理委員会（安部博文監事、伊藤富佐雄監事）が設置され、理事立候補受付が開始されました。締切の 9 月 30 日までに 2 名の立候補があり、また常任理事会より推薦者が 12 名ありました。役員選任規程第 6 条(1)の理事候補者が「25 名を超えない場合、投票は行わないものとする。」に基づき、14 名の新理事が決定しました。この結果は、10 月 2 日の年次大会（二松学舎大学およびオンライン）閉会式において選挙管理委員会より報告されました。

10 月 15 日に新理事による第 1 回理事会が開催されました。役員選任規程第 3 条、4 条に基づき、互選により会長・常任理事が選出されました。その後、11 月 28 日に第 2 回理事会が開催され、役員選任規程第 7 条に基づき理事会の議決による理事 14 名が決定しました。

以上の手続きにより確定した新理事体制は次のとおりです。

（会長）

安田 洋史

（常任理事）

松江 英夫

中島 洋行

野間口隆郎

咲川 孝

歌代 豊

(理事)

浅野 浩美

符 儒徳

藤井 享

林 恭子

林田 英樹

Heller Daniel Arturo

犬飼 知徳

閑林 亨平

木村 裕斗

小久保 欣哉

小村 亜唯子

近藤 信一

Magnier-Watanabe Remy

松田 千恵子

宮本 文幸

室 勝弘

中村 正伸

那須野 育大

長内 厚

坂本 雅明

志田 崇

高桑 健太郎

富田 純一

4. 2022 年度学会賞受賞者のお知らせ

2022 年度学会賞受賞者が次のとおり決定いたしました。二松学舎大学で開催された年次大会閉会式において受賞者発表と表彰が行われました。

学会賞（論文部門）：

深谷 友理（明治大学大学院）

対象論文

“Four Levers of Control System Impact on Frontline Employees’ Initiative Job Improvement”

Journal of Strategic Management Studies, Vol.13, No.1, 2021.

学会賞（著書部門）： 該当者なし

学会賞は、戦略経営に関する理論または実践について貢献するところが大きいと認められた本学会員を表彰し、本学会、及び戦略経営の理論と実践の発展をはかることを目的とし創設されました。戦略経営に関する理論または実践の発展に貢献するところが顕著であると認められた論文を執筆した、本学会員に論文部門賞を授与する学会賞（論文部門）と、戦略経営に関する理論または実践の発展に貢献するところが顕著であると認められた著書を執筆した、本学会員に同賞を授与する学会賞（著書部門）があります。

学会賞（論文部門）については、2021年4月1日より2022年3月31日までに刊行された“Journal of Strategic Management Studies”および『戦略経営ジャーナル』に掲載された査読論文を対象とし、審査委員会により審査を行い、受賞候補を選定し、最終的に常任理事会によって決定しました。

学会賞（著書部門）については、2021年4月1日より2022年3月31日までに刊行された本学会員による単著、共著（第一著者が本学会員であること）が対象で、学会員から自薦または他薦されたものが候補でしたが、残念ながら該当者なしとなりました。

2023年度も引き続き、学会賞の選考を行います。論文部門は2022年4月1日より2023年3月31日までに刊行された“Journal of Strategic Management Studies”および『戦略経営ジャーナル』に掲載された査読論文が対象となります。また、著書部門については、4月以降に改めて自薦他薦の公募を案内いたします。会員のみなさまには、ご理解とご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

5. 2022年度年次大会のご報告

2022年10月2日（土曜）、3日（日曜）に、2022年度国際戦略経営研究学会年次大会が、二松学舎大学九段キャンパス、3号館にて対面、オンラインにて開催されました。初日、二日目ともに晴天の秋晴れのなか開催されました。統一論題に関するGlobal Forumとパネルディスカッション、2の基調講演に加え、22件の研究報告が行われました。

今回の統一論題は、「経営を取り巻く潮流変化と課題－With コロナでのDXを中心に考える－」（Changes and Issues the Business Environment DX in With Covid19）でした。

Global Forumでは、オランダと日本をつなぎ、パネルセッションが開催されました。司会は、古屋紀人会長（University of Missouri St. Louis & IGB）がされ、討論者として、オランダからオンラインにて、Fons Trompenaars（HT Dutch Organizational Theorist）先生が、“Developing Digital Leaders: the Critical Role of Dilemma Reconciliation”をテーマに話されました。Andrew Silberman先生（Temple University & Keio University）も、大会開催現地の二

松学舎大学までお越し頂き、**Keynote Speaker** およびパネリストとして参加をしていただきました。

日本語統一論題シンポジウム「経営を取り巻く潮流変化と課題－With コロナでの DX を中心に考える－」では、特別講演として、大崎真孝氏（エヌビディア日本代表兼米国本社副社長）をお招きして、オンラインで「NVIDIA が牽引する日本のデジタルトランスフォーメーション」をお話していただきました。また、森沢伊智郎氏（野村総合研究所 執行役員・コンサルティング事業本部本部長兼 NRI APAC 社長）をお招きして、オンラインで「経営を取り巻く潮流変化と課題」について特別講演をいただきました。

統一論題、パネルセッションを開催でき、With コロナを前提とした、企業経営を取り巻く環境や課題への認識、またその中で DX をいかに推進していくのか、について議論がなされたと考えます。

大会の開催の準備にあたりご協力頂きました、古屋会長、その他の IASM 常任理事の先生にお礼を申し上げます。また、報告、司会、参加をされました会員の方々にお礼を申し上げます。大会の準備、実行にご協力頂きました、本会員であり二松学舎大学国際経営学科の同僚の先生にお礼を申し上げます。会員の皆様方のますますご活躍を祈念しています。

小久保 欣哉

2022 年度大会実行委員長

6. 2023 年度年次大会のご案内

本年の 2023 年度の年次大会・研究発表大会につきまして、下記の通り進めていきます。下記の通り、東京農工大学、小金井キャンパスにて、同大学、大学院工学府産業技術専攻、林田英樹教授を大会責任者として開催されます。3 年ぶりの全面、対面での学会開催を準備しています。なお、コロナ禍が収束していませんので、懇親会は予定しておりません。

- (1) 開催場所：東京農工大学、小金井キャンパス
- (2) 開催日：2023 年 9 月 16 日（土曜）－17 日（日曜）
- (3) 統一論題テーマ：, **Re-Japan Innovation Strategy**

日本再生をイノベーション戦略の観点からアプローチをします。

- (4) 募集要領：

- ① 自由論題投稿期間：2023 年 6 月 1 日－7 月 15 日（予定）
- ② 原稿の言語：英語での発表の場合は英文、日本語での発表の場合は和文となります。
- ③ ワークショップ等を企画しています。

以上、申し込み方法など、詳細が決まり次第、学会ホームページと会員メールでアナウンス致しますので、よろしくご願ひ申し上げます。

咲川 孝

国際戦略経営研究学会 大会企画運営担当常任理事

中央大学 国際経営学部

7. 学会誌編集委員会からのお知らせ

本学会では、英文ジャーナル“Journal of Strategic Management Studies”と、和文ジャーナル『戦略経営ジャーナル』をそれぞれ発行しております。どちらも査読付論文、査読付研究ノートなどで構成されています。本学会の学会誌の特長として、いつでも投稿が可能であることと、英文ジャーナルについては査読段階では日本語で執筆した原稿を投稿した後に、査読通過後に英文化することも可能な点が挙げられます。会員のみなさまからの積極的な投稿をぜひお待ちしております。

なお、2023年2月1日以降にご投稿いただいた論文から、シニア・エディターの決定方法が変更となります。従来は、編集委員会がシニア・エディターを決定していましたが、今後は編集委員会が作成したシニア・エディター候補者リストの中から、投稿者がシニア・エディターを選択します。シニア・エディターが2名の差読者を選ぶ点は従来と変わりありません。

8. 新研究会：企業革新研究会のご案内

日本企業再生研究会は、既存の研究会を維持しつつ、別に新たに「企業革新研究会」を設けることとなりました。

この新研究会の目的は、企業再生に限らず、より広く企業革新に関連する（主に）トピカルなテーマについて、さまざまな関連分野から理論的検討を加え、新しいパラダイム/理論の形成や既存理論の修正等を目指すことにあります。不確実な企業環境はそれを要求しているとともに、その可能性を提供していると考えられます。

研究会は次の方式で行います。

- (1) 各テーマについて、1～4回の研究会を連続的に開催します。また、発表を聞いて、もっとこういう人の話を聞きたい、あるいは自分が話したいというご希望があれば、そのテーマについて、第2ラウンド、第3ラウンドの研究会を開催したいと思います。
- (2) 発表者は外部招聘も考えますが、まずは学会員自身の研究からスタートしたいと思います。

研究テーマは、本年については、次のものを予定しています。

- (1) 前半は、「日本企業の“創造性/革新の欠如”と“現場力の低下”の“並存”の原因とその克服の方策はいかなるものか」について、組織論（集団と創造性，個人と集団の適応・逸脱，個人と組織の適合・不適合，等に関する理論），人的資源関係論，DMC（ダイナミックマネジリアルケイパビリティ）パースペクティブなどからの検討をおこないます。
- (2) 後半は、プラットフォーム，プラットフォームに関して，EV・自動運転に関するトヨタ・ホンダの対GAFA戦略の比較，中国のプラットフォームから学ぶべき対GAFA戦略，プラットフォームの社会的責任・コーポレートガバナンス，などを取り上げることを予定しています。

研究会開催の情報は追ってお知らせいたします。

会員皆さまのご協力を宜しくお願いします。

世話人：河合忠彦，西尾弘一

9. 事務局からのお知らせ

(1) 会費納入のお願い

日頃より学会活動にご尽力いただきありがとうございます。学会活動は会員の皆様の会費がベースです。皆様には、本年度の学会費納入をお願いいたします。

会費を3年間滞納した場合には会則第8条第4号に基づいて会員資格が失われます。

以上をご留意の上、早期の会費納入につきましてご協力をお願いいたします。

年会費は正会員 8,000 円，準会員（学生） 5,000 円です。指定口座は次のとおりです。

銀行名 : ゆうちょ銀行 口座番号 : 00120-3-585264

口座名義 : 国際戦略経営研究学会

なお、会費納入に当たっては必ずフルネームをご記入下さい。特に校費等で振込を行う場合など、大学から学会宛に直接振り込みが行われる際にはご注意ください。

(2) 住所等変更の際のご連絡のお願い

所属・ご住所・メールアドレス等を変更された方は、速やかに学会事務局までご連絡ください。準会員で入会された方も、学生の身分を離れた場合には正会員になりますので、学会事務局までお申し出下さい。

(3) 活気溢れる学会運営のため、お知り合いの方には是非当学会への入会をお勧め下さい。ご不明の点がありましたら、下記学会事務局までお問い合わせください。

#####

国際戦略経営研究学会 (IASM)

〒162-0801 東京都新宿区山吹町 358-5 アカデミーセンター

電話 03-6824-9369・FAX 03-5227-8631

平日 9:00～12:00 13:00～17:00(土日・祝日を除く)

iasm-post(at)bunken.co.jp (at)の場所に@をお入れください)

#####